



「地域の足」 を守る

4月から コミュニティバスの 運行体制が変わりました

◎お問い合わせ
市役所企画政策課 (☎ 662-7602)

バス運行の現状と課題

市では、路線バスの運行を維持するために路線バス運行会社に対して補助金を支出するとともに、路線バスだけではカバーできない地域や公共交通の空白地域においてはコミュニティバスなどを運行し、総合計画に基づいて市民の日常生活を支える交通手段を確保しています。

しかし、バス運行を維持するうえで、「面積が広大なうえに谷筋に沿って集落が散在しているためバス利用者がまばらになりがちで輸送効率が悪い」「市の中心

部にある施設まで距離があるため運行経費が高くなっている」などの難しい課題を抱えています。

行政と市民で公共交通のあり方を検討

市では、平成19年10月に養父市地域公共交通会議（北本健一郎会長、委員19人）を、平成20年4月に養父市地域公共交通活性化協議会（会長、委員数は同じ）を設置し、行政と市民の皆さんの協働によって今後の地域公共交通のあり方を調査・検討してきました。

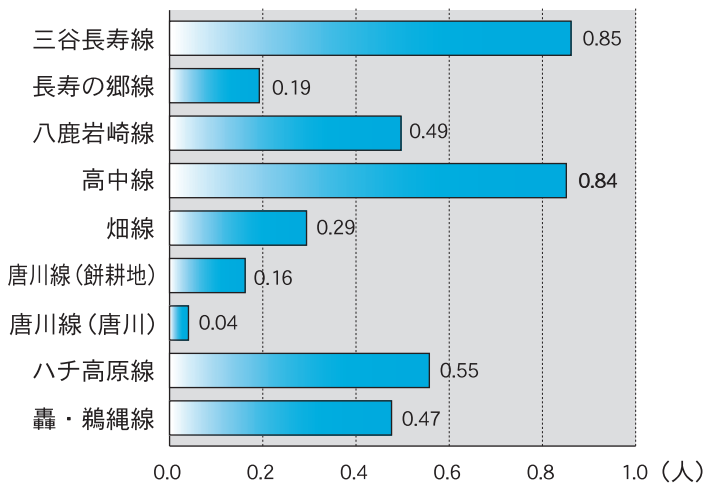
養父市地域公共交通会議では、今後の公共交通のあり方に関する基本方針として次の3点が定められました。

- ① 路線バスを守り、重複して運行するコミュニティバス路線の見直しを図る。
- ② 行財政改革の視点で経費削減に努める。
- ③ 児童生徒の通学の足、スクールバスの運行確保に努める。

さらに、公共交通活性化協議会で基本方針に基づいた「養父市地域公共交通総合連携計画案」について検討がなされ、より具体的な方針が示されました。

- ① 路線バスとコミュニティバスの重複する区間は原則として路線バスを残し、コミュニティバスは路線バスが運行さ

◆平成19年度 1便当たりの利用者数（通学除く、片道）



※八鹿駅、Yタウン、関宮地域局方面行きの片道の利用者数。

- ② 土曜日や学校休校日の平日について、コミュニティバスの運行を見直す。
- ③ 利用者の少ない路線や便については効率的な方法（乗合タクシーや隔日運行の実施など）を検討する。
- ④ 利用者が極端に少ない便は運行のあり方について地域とともに検討する。
- ⑤ 遠距離通学の児童・生徒の通学交通手段について、路線バスの有効活用やスクールバスの効率的な運行などについて検討し、運行経費の縮減に努める。

路線名	変更後の運行体制（抜粋）	コミバス運行日
八鹿コミバス三谷長寿線 (八鹿駅～三谷・青山)	↓三谷・青山～寄宮間での運行としています。 ↓市町村有償輸送（市が運行主体）とし、地域の自治会に運行を委託しています。 ↓寄宮～八鹿駅方面は路線バスを利用してください。	月・水・金曜日
八鹿コミバス八鹿岩崎線 (八鹿駅～岩崎・大江)	↓月・水・金曜日は現行のコミュニティバスのダイヤに準じた運行。 ↓火・木曜日は登校日の通学時間帯のみ運行しています。	月・水・金曜日、 火・木曜日は登校日のみ
八鹿コミバス長寿の郷線 (八鹿駅～いきいきドーム)	↓利用者が極端に少ないため廃止しました。	廃止
わいわいバス高中線 (Yタウン～高中)	↓月・水・金曜日は現行のコミュニティバスのダイヤに準じた運行。 ↓火・木曜日は登校日の通学時間帯のみ運行しています。	月・水・金曜日、 火・木曜日は登校日のみ
わいわいバス畑線 (Yタウン～畑上)	↓唐川線は廃止し、路線バス井ノ坪線に一本化しました。ただし、唐川～井ノ坪、餅耕地～建屋診療所間は市町村有償輸送とし、地域の自治会に運行を委託しています。	月・水・金曜日と登校日の火・木曜日
わいわいバス唐川線 (Yタウン～餅耕地・唐川)	↓路線バスと乗り換えのためのダイヤ調整をし、出合バスターミナル～八子高原・轟・鶉縄間のみを運行しています。 ↓通学利用便は関宮地域局～八子高原・轟・鶉縄間を運行しています。（下校時は出合バスターミナルで乗り換え）	月・水・金曜日
せきのみやふれあいバス (関宮地域局～八子高原・轟・鶉縄)		月・水・金曜日

高齢者等優待乗車制度を創設

養父市に住民票または外国人登録のある満70歳以上の方、障害者手帳を所有している方などを対象に、市内の路線バスとコミュニティバスを1回150円で利用できる制度を創設しました。この制度を利用するためには、乗車証の交付申請が必要です。

請手続きが必要ですので、市役所福祉課または各地域局で手続きをしてください。

4月以降のコミバス運行体制等

これらの具体的な方針に基づき、地域別・路線別に運行体制について検討した結果、4月から左表のとおり運行体制を変更しています。